

(2)「学校林いずみの森・大発見」(小学3年生)

1. 学習概要

(1) 学習のねらい

自分の身近にある学校林「いずみの森」の木や草花に親しむ活動を通して、自然の面白さ、すばらしさを感じとり、いずみの森を大切にしようという心を育てる。

(2) 学習にあたって

我が校には子ども達が入学したときから慣れ親しんでいる自然の森「いずみの森」がある。この単元において、「いずみの森」での自然を感じ、自然を見直す中で、身近にある木や草花にも目を向けていく心を大切に、他の人たちに「いずみの森」がどんなにすばらしく自慢できるかを「いずみの博物館」として紹介していきたいと考える。

まず始めに、「いずみの森」から落ち葉を拾ってくることから活動を始めた。その時落ち葉を見て「こんなに大きい葉っぱ拾ったよ。」「こんなに長い葉っぱもあるよ。」「穴だらけの葉っぱを見つけたよ。」など自分の見つけてきた落ち葉について感想を言うことができた。また、葉の色や硬さ、周りの様子などいろいろな角度から葉を見ることもできていた。そこで、落ち葉を使い、葉っぱじゃんけんをすることにした。お題は、教師と子どもで考えて「大きい葉っぱ」、「ぎざぎざの葉っぱ」の二つにし、より近い方が勝ちとした。ジャンケンをする中で、ぎざぎざなものはどちらが勝ったか判断しにくいという子どもが出てきた。その時「同じ葉でもぎざぎざの数が違う。」という子どもの声から葉にはいろいろな形や大きさがあることに気づくことができた。

次に、実際に自然物に触ってみてどう感じたか、ということに目を向けさせていくために、目を閉じたまま机の上に置いたものを触らせる活動を行う。子ども達に「さわってみよう。」と投げかけをし、気づいたことや感じたことなどについて発表をさせ、目で見たものとさわった感じの違いについて気づかせていく。そして、自然物を見つけさせ、さわった感じから自分で考えた名前をつけ、新しい名前をつける楽しさを味あわせていく。

そして、展示したものの中から三つを教師が箱の中に入れ、触覚で中のものを見つけるブラインドタッチを行う。その中で自分の感じたこと、他の人が感じたことが同じであったり、違うことに気づき、さまざまな着眼点があることがわかる。

最後に、今まで名前をつけて展示してきたものを「いずみの博物館」と称し、他のクラスに見に来てもらうように呼びかけ、自分たちの感じたことを周りに広めたり、伝えたりした。そして、アンケートに書いてもらい、自分たちの活動の振り返りとして活用し、これまでの学習のまとめを行った。

いずみの森で見つけてきた一枚の葉から、自然のおもしろさやすばらしさに気づき、いずみの森を大切にしようとする心が育っていく授業の展開を心がけた。

(3) 学習指導計画 (全6時間)

区 分	内 容	時 間
第1次	葉っぱジャンケン	〈1時間〉
第2次	「さわってみよう」の展示づくり	〈4時間〉
	1.さわってみようー1	1時間
	2.さわってみようー2	1時間
	3.ブラインドタッチ	1時間
	4.展示づくり	1時間
第3次	ばくらの「いずみの森博物館」	〈1時間〉

(「総合的な学習の時間」にて実施)

2. 授業の展開

実践習字 ②

1時間目 「葉っぱじゃんけん」

1. 本時の展開

(1) 学習目標

様々な視点で葉っぱを見ることにより、葉っぱにはどんな特徴があるかを知ることができる。

(2) 準備物

葉っぱ

(3) 本時の活動

学習活動	教師の手立て (○評価)
1. どんな葉っぱがあるかな	・ 拾ってきた葉っぱにはどのようなものがあるかグループや班で話し合わせる。 ○ 葉っぱによって大きさや形が違うことに気づいているか。
2. 葉っぱじゃんけんをする	・ お題がなかなか出にくい時のために、あらかじめいくつか考えておく。
3. 学習をふり返る	・ 感じたことや発見したことを発表しにくい子には、前でもう一度じゃんけんをさせる。 ○ 葉っぱの特徴について新しい発見をしているか。

2. 学習風景

■どんな葉っぱがあるかな

葉っぱじゃんけんをするために、まず学校林「いずみの森」に行き、形や大きさ、色の違った葉っぱをみんなでたくさんとりました。



■葉っぱじゃんけんをする

「丸くて大きいもの」「大きな葉っぱ」などのお題を出し合い、じゃんけんをします。「丸くて大きいもの」では、松ぼっくりを出した人が勝ち！



1. 本時の展開

(1) 学習目標

しめじを触覚だけで感じることから、しめじに新しい名前をつけることができる。

(2) 準備物

しめじ

(3) 本時の活動

学習活動	教師の手立て (○評価)
1.さわってみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・目を開けて触ったときの感じと、目を閉じて触ったときの感じを発表させて板書していく。 ○視覚だけで触ったときの違いが自分の言葉で言えることができたか。
2.「しめじ」に新しい名前をつけよう	<ul style="list-style-type: none"> ・初めは感じたことを短い言葉で出し合って、板書していく。 ・名前が決まりにくい時は、板書に書いた言葉の中から選んでいく。 ○触った感じから「しめじ」に新しい名前をつけることができたか。
3.学習をふり返る	

2. 学習風景

■さわってみよう

目を閉じ、しめじをさわってみて、感じたことをみんなで発表します。



■「しめじ」に新しい名前をつけよう

さわった感じをもとに、みんなでしめじの新しい名前を出し合い、賛成が一番多かった「つるぶによちゃん」に決まりました。



3時間目 さわってみよう—2(「さわってみよう」の展示づくり)

1. 本時の展開

(1) 学習目標

- ・触覚だけで感じたことを、言葉にまとめることができる。
- ・自分だけの新しい名前を葉や実、種につけることができる。

(2) 準備物

葉や実、種、ワークシート

(3) 本時の活動

学習活動	教師の手立て (○評価)
1.自分だけの名前をつけよう	<ul style="list-style-type: none">・触った感じを書きやすいように、ワークシートを使う。・形や大きさなどの書くポイントを板書していく。 <p>○自分の言葉でワークシートに書きこむことができたか。</p>
2.友だちのも触って見よう	<ul style="list-style-type: none">・ただ見るのではなく、必ず触ることを意識させていく。
3.学習をふり返る	<ul style="list-style-type: none">・できたものを一つ取り上げて、よさや感想を発表させる。 <p>○自分で触ってみて、友だちのつけた名前の良さに気づけたか。</p>

2. 学習風景

■自分だけの名前をつけよう

子どもたちが持ってきた物と合わせて、葉や実、種などを一人ひとりに渡します。子どもたちは前回の学習をもとに、さわった感じや形、大きさなどについてワークシートに記入します。そしてその絵を描き、新しい名前をつけます。



■学習をふり返る

完成したワークシートを子どもたちに発表してもらいます。そして、他の子どもに声をかけ目を閉じてワークシートにかかれた葉や実を実際にさわってもらいます。その感じをもとにワークシートに書かれた名前について感想を述べてもらいます。



○学習の最後に、誰でも自由に見てさわってもらえるように、今日つくったワークシートと葉や実などを教室に展示することにしました。また、さわってみよう「ぼくらのいずみの森博物館」を開催し、他のクラスの友だちにも見に来てもらうことを決めました。

4時間目 ブラインドタッチ(さわってみようの展示づくり)

1. 本時の展開

(1) 学習目標

- ・触るという感触についての豊かな感性を養う。
- ・友だちの意見を聞き、さまざまな着眼点があることに気づく。

(2) 準備物

箱・ワークシート・葉や実、種など

(3) 本時の活動

学習活動	教師の手立て (○評価)
1.箱の中に何が入っているか考える	<ul style="list-style-type: none">・ワークシートを使って、書き方やゲームのし方について知らせる。・形や大きさ、かたさなどに整理して板書していく。○さわった感じを自分の言葉で言えることができたか。
2.「ブラインドタッチ」をする	<ul style="list-style-type: none">・さわって感じたことをそのままワークシートに書かせていく。・子ども達の書いた、感じたことや気づいたことを見ながら、意欲が持てるように声かけをし、ほめていく。○視覚で探すのではなく、触覚で確かめ探し出すことができたか。
3.箱の中の物について話し合う	<ul style="list-style-type: none">・自分のさわった感じと他の人がさわった感じを発表させ、さわる人によってさまざまな着眼点があることに気づかせる。○さわる人によってさまざまな着眼点があることに気づけたか
4.学習をふり返る	<ul style="list-style-type: none">・ワークシートに今日の学習の感想を書かせ、ふり返りをさせる。

2. 学習風景

■箱の中に何が入っているのかな。(導入部分)

- ①ワークシートを使って、書き方やゲームのし方について知らせ、各班に同じ植物が入っている箱を配ります。
- ②箱の口から手を入れ、中のものを触ってみる。大きさや硬さなど、触って感じたことをワークシートに記入します。



- ③触って感じたことをみんなで発表します。



- ④教室の後ろに展示してある「さわってみよう」でこしらえた植物シートを見に行き、触ったときの感触から、箱の中の植物はどれか、植物シートの中から予想します。



- ⑤子ども達が箱の中に入っているものを当てあいます。名前は植物シートに書かれてある名前前で発表することにします。



- ⑥最後に先生が箱の中に入っているものを発表します。



■ブラインドタッチをする

- ①ゲームの仕方を子どもたちに説明する。それぞれ違った物（植物）の入っている3つの箱（1～3の番号をつけておく）を準備し、教室の適当なところに置いておきます。
- ②子ども達は箱の口から手を入れ、それぞれの箱に入っている物にさわります。



- ③さわって感じたことを、ワークシートに記入します。



- ④教室の後ろに展示してある植物シートを見たりしながら、箱の中身を考えます。



■箱の中の物について話し合う

①箱の中の物にさわって感じたことをみんなで発表します。

- ・子どもに教室の前に出てきてもらい、箱の中の物に触ってもらいます。
- ・前に出てきた子どもに、さわった感じを発表してもらうとともに、他の人が同じ箱を触ったときに感じたことを発表してもらいます。
- ・3つの箱のそれぞれについて同様に行い、人によって様々な感じ方や着眼点があることを、子ども達に気づいてもらいます。



②子どもたちにそれぞれの箱に何が入っているかを当てさせ、最後に先生が中味を発表します。



■学習をふり返る

ワークシートに学習の感想を書かせ、ふり返りをさせます。



1. 本時の展開

(1) 学習目標

「いずみの博物館」に向けて展示をつくることができる。

(2) 準備物

葉や実、種、ワークシート

(3) 本時の活動

学習活動	教師の手立て (○評価)
1. 「いずみの博物館」の開館日を決めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのつくったものを「いずみの博物館」として他のクラスにも触ってもらうことを知らせる。 ・仕事を一人一人につくり「いずみの博物館」への意欲を持たせる。
2. 展示物をつくらう	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、自分の作ったものを見直させ、説明できるように自分の言葉でまとめさせる。 ○他の人に自分の展示物をじょうずに説明することができたか。
3. 学習をふり返る	<ul style="list-style-type: none"> ○「いずみの博物館」に出す展示物ができたか。

2. 学習風景

■「いずみの博物館」の開館日を決めよう

博物館の開館日やその内容などについてみんなで話し合いました。楽しんでもらうために、ブラインドタッチをやること、感想などを聞くためのアンケート調査、そしてポスターをつくることなどが決まりました。



■展示物をつくろう

画用紙などを使って、博物館に展示する植物等を入れる箱や説明シートをつくりました。いろんな植物の展示物がたくさんできました。名前もユニークです。



1. 本時の展開

(1) 学習目標

「いずみの森博物館」を成功させる。

(2) 準備物

箱・葉や実、種・ワークシート

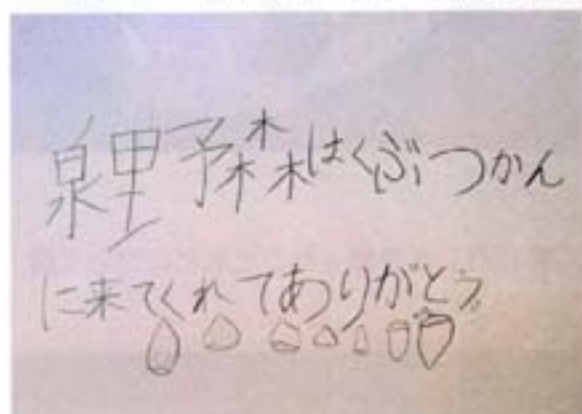
(3) 本時の活動

学習活動	教師の手立て (○評価)
1. 「いずみの森博物館」の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班やグループで協力させて博物館の準備をしていく。 ・ それぞれの役割をもう一度確認し、意欲を持たせていく。
2. 「いずみの森博物館」の開館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見るだけでなく、触って感じてもらうように声かけをしていく。 ○ 他の人に自分の展示物をじょうずに説明することができたか。
3. 学習をふり返る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来てくれた子どもたちの感想を聞き、感じたことや思ったことを話していく。

2. 学習風景

■ 「いずみの森博物館」の準備をする

教室への出入り口にポスターを貼りました。ブラインドタッチをしてもらうための箱や、アンケート用紙、そして、植物の展示物も机の上に並べます。



■ 「いずみの森博物館」の開館

いよいよ、いずみの博物館の開館です。他のクラスの友だちがたくさんやってきました。ブラインドタッチや展示物を見たりさわったり興味ぶかそうに質問などもありました。また、アンケート用紙も配りました。





■学習をふり返る

博物館に来てくれた子どもたちに感想を聞き、感じたことや思ったことなどについて話し合いました。



●「いずみの森・大発見」をふり返って

いずみの森大発見では、ティーチャーズガイドの教育プログラムである、「葉っぱじゃんけん」、「さわってみよう」の展示づくり、「ブラインド・タッチ」を活用している。ここでは、プログラムで工夫した点、学習での子どもたちの様子や変化等について、先生にお聞きした内容を次のとおり整理します。

1. プログラムや進行等で工夫した点など

●全体として

- ・プログラムに記載されているワークシートは時間的なことや、ねらいによってアレンジした。対象学年や準備の程度など、実際やるとすれば時間とのかねあいで工夫が必要と感じた。
- ・子どもたちが、主体的に博物館を開き、来館者の友達に内容の説明をするなどの活動ができるためには、「さわってみよう」の展示づくり（ブラインド・タッチを含む）を4時間程度は取る必要があると感じた。

●葉っぱじゃんけん

- ・全6時間の流れの中で、まず葉っぱじゃんけんを使って、植物をよく見ることさわってみて観察することから始めた。
- ・葉っぱじゃんけんでは、「大きいもの」「ギザギザがあるもの」など、お題をある程度、最初から決めて行くとスムーズに進む。
- ・プログラムにある、葉っぱじゃんけんでの「葉っぱ観察シート」は使わなかった。子どもたちは楽しいので、すぐにじゃんけんをやりたいがため、その後の話し合いを大切にしたい。他に工夫ができるとも感じた。

●「さわってみよう」の展示づくり

- ・「さわってみよう」の展示づくりでは、特に、自分でそのものの名前をつける箇所をワークシートに構えた。名前は、作成意欲と楽しさを増すために、また、さわった感じを名前で端的に表現できるということもねらいとした。

●ブラインド・タッチ

- ・ブラインド・タッチのワークシートでは、プログラムに記載されているシートの絵を描く箇所をなくした。絵を描かしていると意見交換の時間を持つのが厳しくなる。また、「さわってみよう」で、子どもたちは、すでに絵を描いてまとめるという作業もしていた。
- ・ブラインド・タッチはゲーム感覚ではあるが、箱の中に何が入っているのかをあてることよりも、人によって感じ方や着眼点に違いがあること、さわることでもものを認識できることを気づかせることが大切で、みんなでの話し合いを重点に学習を進めた。

●ぼくらの「いずみの森博物館」

- ・最後の学習時間である「いずみの森博物館」の開館は、それまでの学習のまとめとして行った。そして、「さわってみよう」の展示づくりのプログラムにある、「発展・応用」として位置づけ取り組んだ。
- ・「さわってみよう」の学習で展示物は作成しており、当日の内容等について子どもたちみんなが決めた。ブラインド・タッチは子どもたち自身がやってみて楽しかったので、他のクラスの友達にもやってもらおうと提案された。また、アンケートをして感想を聞くことも決まった。
- ・朝や帰りの会で、子どもたちが他のクラスに来館の呼びかけを行ったり、廊下にポスターを貼ったりと周知につとめた。
- ・アンケートの配布回収、そして集計も子ども達で行った
- ・博物館では、展示物の説明を来館した友だちに自発的に行うなど、常に自分の役割や出番があることを認識させ、また役割に責任を持たせることに留意し進めた。

2. プログラムや子どもたちの様子等について

●プログラムについて

- ・当然ではあるが、学習時間やねらい等によって、ワークシートの内容や進行を工夫した。
- ・全体的に3つのプログラムを、記載されている時間内できちんと展開するのは、内容をかなり工夫しないと厳しいと感じた。

●子どもたちについて

*葉っぱじゃんけん

- ・とにかく楽しくじゃんけんをやっていた。大きさだけでなく、ぎざぎざの数を数え、友だちと比べる子どももおり、葉にはいろいろな形や大きさがあることに気づくことができていた。

*「さわってみよう」の展示づくり

- ・つるつるやざらざらなど、子どもたちの、さわってみた感じの表現が少し単調で、もっと豊かな表現力が必要と感じた。一方で子どもたちは他の人の発表を聞き、人によって感じ方が違うことを学んでいた。
- ・また、名前をみんなで考えたり、自分なりの名前をつけその絵を描いたり、シートの作成が楽しいようで意欲をもって学習していた。

*「いずみの森博物館」の開館

- ・作品にさわってみることが大切、というユニークな博物館である。博物館では、見に来てくれた友だちに感想を言ってもらい、嬉しそうであった。評価され学習への意欲と自信にもつながる機会になったと感じた。また、子どもたちが自分の展示物だけでなく、友だちの分も説明している姿が印象的であった。

*その他

- ・学習当初は、落ち葉などを見過ごしていた子どもが、興味を持って見るようになる。また、全校出店ラリーなど、みんなで何かを始める場合、以前に比べ子どもたちが自発的に取り組むようになる。
- ・「さわってみよう」の展示づくりを、またしたくて、葉っぱなどを学校に持ってきた子どももいた。

絵を描き、感じたことをまとめ、そして名前をつけ、ワークシートが完成する。ワークシートは世界でたった一つしかないその子どもの作品でもある。博物館で自分の作品を展示紹介するというのは、子どもたちにとって、とてもいい経験になったのではないかな。

3. その他

●まとめをおこなう

- ・「葉っぱじゃんけん」から「いずみの森博物館」までの全6時間をふり返って、学習のテーマごとに班をつくり模造紙にまとめ作業を行った。

まず、子どもたち一人ひとりが感想を書き、グループで集まって感想を出し合いまとめていくという作業を進めた。アンケートについてもまとめ、子どもたちの感想も入れた。まとめの作業は休み時間も活用した。

●ブラインド・タッチ、その後の発展

- ・参観日のときに開催する全校出店ラリーに、子どもたちはブラインド・タッチをやることに決めた。他のクラスや学年の子どもだけでなく、参観に訪れた保護者にも行い好評だった。自発的な取り組みで、みんなで役割を決め、積極的に行った。また、箱の中には自然のものだけでなく、消しゴムなども入れ工夫した。

さわってみよう！

名前

月 日 (

)

パート1

○さわった感じをたくさん書いてみよう。



絵

Seven horizontal lines for writing the feelings experienced after touching.

さわって、さわって パート2

番

—ブラインドタッチ—

月 日 ()

○さわった感じをたくさん書いてみよう。

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

○さあ、何だろう。

みんなが見つけてきたものからさがしてみよう。

名前

●参考「ティーチャーズガイド・プログラム」紹介

ここでは、実践事例で活用されたティーチャーズガイドのプログラムについて、その概要を紹介します。詳しくは「ティーチャーズガイド1（センス・オブ・フォレスト）」をご参照ください。

2. 葉っぱじゃんけん

葉っぱをまじまじと見ることはあまりないかもしれません。しかし葉っぱをよく見てみると、いろいろな種類があり、同じ種類でも個性があります。遊びを通して、いろいろな葉っぱがあることに気づくことができるでしょう。

●ねらい

様々な視点で葉っぱを見ると、いろんな種類の葉っぱが見つかるし、同じ種類の葉っぱでも個性があることを知る。あたりまえと思っているものをよく見てきたくなる。

●導入

一人3～4枚の葉っぱを持ってきてもらう。葉っぱを使って、じゃんけんを紹介する。じゃんけんといっても、グー・チョキ・パーではなく、出されたお題に適したものが勝ちということを説明する。

●展開

お題を出す。例えば「大きなもの」「きれいなもの」「ざざざが多いもの」「たくさん色が入っているもの」など。「はっぱっぱ！」の掛け声とともに、自分の手持ちの葉っぱからお題にあったものを出し合う。よりお題に近い葉っぱを持っている人は、そうでない人の葉っぱをもらえる。参加者同士で話し合っただけ。次の回は相手を替えて実施する。

●まとめ

最後に一番葉っぱを持っていた人に拍手。じゃんけんをして感じたこと、葉っぱをよく見て発見したことなどを紹介し合ってみる。

●評価の視点

自分の思ったことが言えたか、相手の言うことを聞いたか。お題に沿って葉っぱの特徴を見つけ

出すことができたか、相手と話し合っただけ結論を出せたか。

■所要時間等

【所要時間】 20分

【人数】 何人でも

【関連科目】 国語、算数、理科

【準備するもの】 特になし

3. 「さわってみよう」 の展示づくり

アメリカの国立公園や保護区をまわると、展示で必ずあるのが「Please Touch!」。きわめて簡単なつくりですが、いろんなメッセージが込められています。

●ねらい

展示づくりすることを通じて、自然物によくさわり、他の人がさわった時にどう感じるか、ということに思いがいくようになる。

●導入

3つ以上の自然物を、「さわってみよう」というタイトルをつけて展示し、今回製作するものの見本として体験してもらう。

●展開

数人のグループに分けて、グループごとに「さわってみよう」展示を創ってみる。タイトルの他、さわることがうながすコメントもつけてみよう。

●まとめ

他のグループの展示を体験してみる。感じたこと、気づいたことなどを紹介しあってみよう。

●評価の視点

展示のためによく観察（さわる）していたかどうか。見せるための展示の工夫をしているか。他のグループの人たちの展示を見て良いところを指摘できるかどうか。

●発展・応用

廊下などに行って期間展示してみよう。他のクラスや他の学年の人たちの反応を観察したり、感想をカードに書いてもらうとよい。

■所要時間等

【所要時間】 1時間

【人数】 ~40人

【関連科目】 国語、理科、図画工作

【準備するもの】 展示のための道具類

4. ブラインド・タッチ

人はどうしてもものの認識を視覚に頼りがちです。目隠しをしてみると、さわる感覚や音を聞く感覚が一段と発揮されます。目隠しをして(ブラインド)、おしゃべりをしないで自然に向き合うと、これまでにない感覚で、自然をとらえることができるはずです。

●ねらい

視覚に頼らないで、触覚で自然物を感知することができるようになる。視覚だけでなく、触覚でも自然を自然を認識しようとするようになる。

●導入

さわっただけでわかったことはあるか。見てもわからないが、さわるとわかるものがあるか。今回はさわったものを探してくる活動。

●展開

四角い箱か袋の中に自然物を入れ、目で見ないで手でさわっただけで、その自然物の感触、大きさなどを覚える。自然の中に出かけていって、箱(袋)の中身と同じものを探してくる。

●まとめ

実際に箱(袋)の中にあったものと、見つけ出してきたものが同じかどうか、答えあわせをします。さわっただけで探し物をしてきたことについて、感じたこと、気づいたことを話し合おう。

●評価の視点

さわったものの名前をいうのではなく、さわった感じをいえるかどうか。探しに行ったときに、目で探すのではなく、いろんなものにさわって確かめていたかどうか。

■所要時間等

【所要時間】 30分

【人数】 30人程度

【関連科目】 理科

【準備するもの】 箱か袋の中に入れるもの